



循環器

企画：上田恭敬

(日本心臓血管内視鏡学会理事長，国立病院機構大阪医療センター
循環器内科)

循環器領域における内視鏡は，心臓内腔を含む血管内を観察する心血管内視鏡である．血管内を観察するためには血液を視野から排除する必要があり，それが容易な小径血管である冠動脈や下肢動脈から使用がはじまった．

冠動脈の閉塞は心筋梗塞となるため，その機序解明は重要な課題であり，内視鏡による研究が大きく貢献してきた．冠動脈にステントが留置された際の血管反応の観察も，ステント血栓症や再狭窄の機序解明に貢献してきた．内視鏡では肉眼病理の知見が利用できるだけでなく，肉眼的に直接観察することで「何が起きているのか」を直感的に把握でき，新たな研究へのインスピレーションの源となる．さらに，観察が困難とされていた大動脈壁の観察が可能であることが最近明らかとなり，これまでの想像とはまったく異なる大動脈硬化の実態が明らかとなった．

その内視鏡画像から，大動脈硬化に起因すると想像される疾患やその機序が仮説として提唱されたことで，新たな医学研究のフロンティアが形成されつつある．